



高瀬中だより

郡山市立高瀬中学校
令和4年7月7日発行
《第18号》 文責：校長 齋藤高志

高瀬小中CS小中連携事業（その2） 地域学校協働活動

高瀬小中コミュニティ・スクールでは、今年度、家庭、地域、学校が協働し、以下の3つの分野で活動を推進しています。5月24日に開催した第1回学校運営協議会の協議内容を踏まえ、小中教員がそれぞれ3つの活動分野に分かれ、学校運営協議会委員の方々とともに本年度実施した事業の振り返りや今後の具体的な取組について協議しました。学校運営協議会委員の方々からも、多角的な視点から具体的な提案をいただきました。

「高瀬小中一貫教育」班より



小中一貫教育班では、小中キャリア教育、将来的な部活動の地域移行、高瀬小中9年間を通した「分かる・できる」授業づくりの取組みについて協議しました。

【主な協議内容】

- 部活動について（現状）
 - 任意加入の学校が増えています。
 - 今後学校から地域型スポーツクラブへの移行へ。
- 職場体験について
 - 受入れは大変であるが、中学生にとって意義深い活動です。
 - 親への感謝の気持ちが育ちます。
- 小中連携授業研究会について
 - 今回の授業は全教員で参観するスタイルで良かった。
 - 普段の授業を大切にすることを重要性を認識しました。
 - 小学校と中学校の教員の打合せのご苦労に感謝します。

「SDGsを基盤とした教育活動」班より



SDGs班では、6月に行った小中地域ボランティア活動、小中引き渡し訓練など、SDGs 17のゴールに向けた活動の取組みについて協議しました。

【主な協議内容】

- 地域ボランティアについて
 - 雨の中の実施であったが、小中一緒に楽しかったという感想が多かったです。
 - 地域に目を向けるよい機会となりました。
 - 事前の準備で、小学校とリモートでやり取りできたのは、良かったです。
 - 敬老会など地域の人を巻き込んで実施したかったです。
 - 雨でもできることを子どもたちが考えて行動できるようになると良いのではないのでしょうか。

2 引き渡し訓練について

- やり方はよかったです。中学生が小学校に来てくれたことで、小学生は安心して待っていられました。
- 警察の協力を得ていたため、県道の一般車両は、スムーズに流れていました。
- 徒歩で迎えに行くこととメールが届いてから動くという約束を確認したいです。
- 震災時の混乱した状況が忘れられつつあります。想定と意識が大切です。

3 新しい取組の提案

- 部活動を介してふれあう機会をもってはどうでしょうか。
- 寺子屋で中学生が小学生に学習を教えるはどうでしょうか。
- 地域の人たちにとって、小中学生と触れ合う機会が持たてることが新鮮で良かったです。

「健全育成」班より



健全育成班では、「あいさつ運動」「歯科受診率の向上」「食育・フードロスへの取組み」SDGs 17のゴールに向けた活動の取組みについて協議しました。

1 あいさつについて

- 小学校は、数年前までうるさいくらいあいさつをしていました。何らかの働きかけが必要であると思います。小学校も何か活動していけるとよいです。中学生が小学校に行つてのあいさつ運動などはどうでしょうか。
- 中学生は校舎の入り口であいさつ運動を行っています。PTAとも連携しての朝のあいさつ運動を行っています。
- あいさつができる高瀬の子どもの育成に今後も取り組みたいです。

2 歯科受診率について

- 歯科受診率については、昨年夏休み以降上がってきているので、夏休みに向けて呼びかけをしていきたいです。
- 保護者の方の意識も関係あるのではないのでしょうか。
- 学校歯科医から、10分～20分キシリトールガムを噛むことを推奨されました。（歯並びの改善のため）

3 食育・フードロスについて

- 幼稚園の頃からよく噛んで食べる習慣を身に付けさせたいです。連携して出来たらよいのではないのでしょうか。（幼・保・小連携の活用）
- 残食は少なくなっているが、副菜（汁物）の残食が多いです。朝食アンケートでも味噌汁を食べないと答えていることから何か関連性があると思われます。
- 小学校では、苦手のメニューでも一口は食べてみるようと呼びかけています。

4 その他

- 保健室で休む子の中に、前日ゲームを遅くまでやっている子がいるとの話を聞くことがあります。寝室にはもっていかないように話をしています。
- 中学生の携帯（スマートフォン）所持率の情報交換を行いました。